

ニューズレター

No. 1
2017.10



市民の誰もが安心して暮らせる国分寺市を作りたい。

このニューズレターは、様々な分野の地域課題を掘り起こし、一つひとつ解決に向け取り組んでいく、自立支援協議会の報告をお届けするものです。今回は、その創刊号として、国分寺市障害者地域自立支援協議会の説明、全体会議の会長と各部会長のあいさつを掲載いたします。今後、年2回の予定で国分寺市内のまちづくりに関する多様な事業や活動などをご報告してまいります。

障害者の地域生活支援と「まちづくり」 ～自立支援協議会の役割～

国分寺市障害者地域自立支援協議会
会長 石渡和美(東洋英和女学院大学教授)

昨年10月から、国分寺市障害者地域自立支援協議会の会長を務めている石渡和美と申します。横浜の大学で、「障害者福祉論」などを担当しています。

私が社会人としてスタートしたのは、1981年、国連が国際障害者年を定めた年でした。それまで、ひっそりと生きるしかなかった重度の障害がある人々が、国際的な流れの中で、生き生きと活動を始めた障害者福祉の転換期でした。働いて、税金を納めることは難しい人たちです。しかし、さまざまなサービスを受けてきたからこそ、少子高齢化が進む社会はどうあるべきか、新しい社会づくりに挑戦を始めた頃でした。

障害がある人が地域で生活していくために、求められる支援とはどのようなものでしょうか。住まう場所、そこでの生活を支えるホームヘルパー、日中に働き、居場所となる所、もちろん医療や教育、いろいろなことが考えられます。このような社会資源を整備し、創り出していくことも自立支援協議会の大きな役割です。

自立支援協議会のもう一つの役割は、「ネットワークの構築」です。「足の悪い人の『車いす』は、我が子に」とっては「人の支援」と主張するMさんは、自閉症の子どもを地元地域で育ててきました。ご子息のことを理解し、見守り、必要な時は手助けしてくれる「地域の人の輪」を広げることに努めた結果、ご子息は公務員として20年余り働き続け、勤め先の市民から感謝され、生き生きと暮らし続けています。今年9月、Mさんはご子息とともに、*糸賀一雄記念賞を受賞されました。Mさんの地域での働きは、まさに自立支援協議会の「ネットワークの構築」にあたります。

この「人の輪」は、自閉症や知的障害の人ばかりでなく、身体障害や精神障害の人にも必要です。そして、

子育て中の親や認知症の高齢者、子どもたちにも大きな意味があります。ちよつとした気遣いや見守りがあるだけで、地域の安心は大きく高まります。自分を気にかけ、してくれる人がいる、という意識は自己肯定感につながり、自信を高めることにつながります。いろいろなことにチャレンジし、それを確に支えてくれる人がいれば、誰もが地域に貢献することができます。

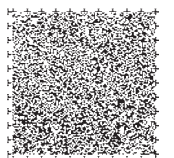
国分寺市障害者地域自立支援協議会は、そのような「まちづくり」に重要な役割を果たしています。なかでも、「相談」が大きな意味をもちます。一人ひとりの思いに寄り添い、ご本人が生き生きとした暮らしを実現することは、国分寺の市民の意識を大きく変えていきます。そのような市民は、誰に対してもあたたかい目を向けられる人です。国分寺市の障害者にとって暮らしやすい街は、全ての人が暮らしやすい街です。そのような「まちづくり」の実現に向けて、国分寺市の自立支援協議会はさまざまな活動に取り組んでいます。



プロフィール いしわた・かずみ

1981年、筑波大学大学院修士。埼玉県障害者リハビリテーションセンター、横浜市総合リハビリテーションセンターを経て、1991年から関東学院大学文学部助教授を経て、東洋英和女学院大学人間科学部教授。専門は「障害者福祉論」「人権論」。

1997年、神奈川県茅ヶ崎市などを中心に発足した『湘南くしネットワーク』のオンブズマンとなり、その後、障害者、高齢者、児童などの多彩な権利擁護活動に携わる。日本成年後見法学会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会(JD)等の理事など。2016年9月～11月まで、津久井やまゆり園事件の神奈川県第三者検証委員会の委員長を務めた。



*糸賀一雄記念賞：重症心身障害児施設「びわこ学園」を設立した糸賀一雄を記念し、1997年に創設された賞。糸賀は重度障害児であっても、人間としての生命の展開を支えることが重要であるとの理念のもと「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」と唱えた。「障害者などの生きづらさがある人に関する取り組み」を表彰対象とし、わが国の福祉の発展と人づくり・意識づくりに寄与することを目的とする賞。

専門部会 部会長より ごあいさつ

国分寺市障害者地域自立支援協議会が、昨年、再編され、以下3部会長が指名されました。

専門分野ごとに、各メンバーと検討・協議を重ね、自立支援協議会の全体会に報告する役目を担っています。

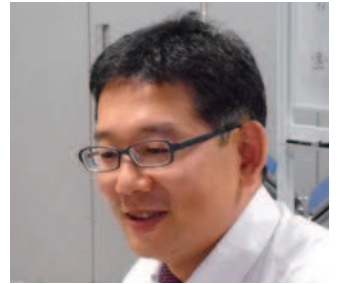
相談支援部会 部会長 土井 満春 社会福祉法人けやきの杜： 国分寺市地域活動支援センター 虹 施設長

今年度の相談支援部会では、「わかりやすく・つながりやすく」を目標に掲げ、サービスを必要とされる方にとって相談支援がよりわかりやすく、身近な存在となるとともに、地域の医療・福祉・教育機関をはじめとする、さまざまな社会資源がネットワークを強化し、サービスを必要とされる方が、よりスムーズに支援機関につながるができるよう、取り組んでおります。

また、相談支援専門員を中心とするワーキンググループでは、国分寺市及び国分寺市障害者基幹相談支援センターとともに、相談支援事業所が抱える課題を分析し、相談支援専門員がより効果的に相談業務に取り組める環境設定や、相談支援の質の向上について具体的な検討を行っています（詳細は、本誌4ページをご覧ください）。

相談支援部会の委員は、いずれも地域福祉の第一線で活躍されている方ばかりで、会議でも、実際の経験に基づく専門的かつ具体的な意見、提案が飛び交っており、新米部会長としては頼もしい限りです。

相談支援部会は、「課題解決チーム」としての役割が求められています。極めて責任重大ですが、目に見える成果が出せるよう、部会として全力で取り組みますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



就労支援部会 部会長 八橋 宏 社会福祉法人ななえの里：ともしび工房 所長

市内の障害者就労支援の状況は、大きく分けて、就労継続支援B型事業に代表される、いわゆる福祉的就労の場と就労移行支援、国分寺市障害者就労支援センターが行う一般就労に向けた支援の二つになります。昨年の就労支援部会の発足以来、それぞれの分野における課題の掘り下げといったことをテーマに情報交換を行ってまいりました。

その中で見えてきた課題として、福祉的就労の場においては、仕事の拡充や工賃向上に各事業所が苦慮しているということ、一般就労支援の現場においては、就労に向けた準備段階としての実習先の開拓や就労後の職場定着支援という部分で苦慮していることが明らかになりました。これらの点について、引き続き議論を深めながら、課題の克服に向けたきっかけとなるような活動を行うことを、今年度の部会運営の目標としています。そこで、去る9月8日に「障害福祉施設の“ものづくり”について考えるとセミナー」を開催しました。なぜ工賃アップを目指すのか、そのために何が求められているのかを考える良いきっかけとなりました（詳細は、本誌4ページをご覧ください）。

就労支援部会は、今後も関係機関と連携しながら、課題解決に向けたさまざまな実践的な取り組みを重ねてまいります。

精神保健福祉部会 部会長 伊澤 雄一 社会福祉法人はらからの家福祉会： 国分寺市地域活動支援センター プラッツ 総合施設長

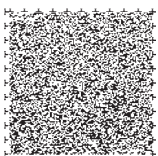
心の病（精神疾患）に罹患し、生活における種々の障害をお持ちの精神障害の方たちは全国で320万人存在し、国民病と言われる悪性腫瘍（がん）や糖尿病を上回るほどとなり、もはや珍しい疾患や障害ではありません。

精神障害の方たちは「医療」の対応とともに、生活支援という「福祉」の対応を得ながら、日々の暮らしを成り立たせている方が多く、この二つの要素がうまく融合し、支援の実効性を高めることが課題となっています。

そのような課題意識とともに、精神科病院に入院し復調したにも関わらず、住宅や家族問題等により入院が長引き、30年、40年もの長きにわたって病院に留められている方たちもあり、生活権の侵害という人権問題も顕在化しています。

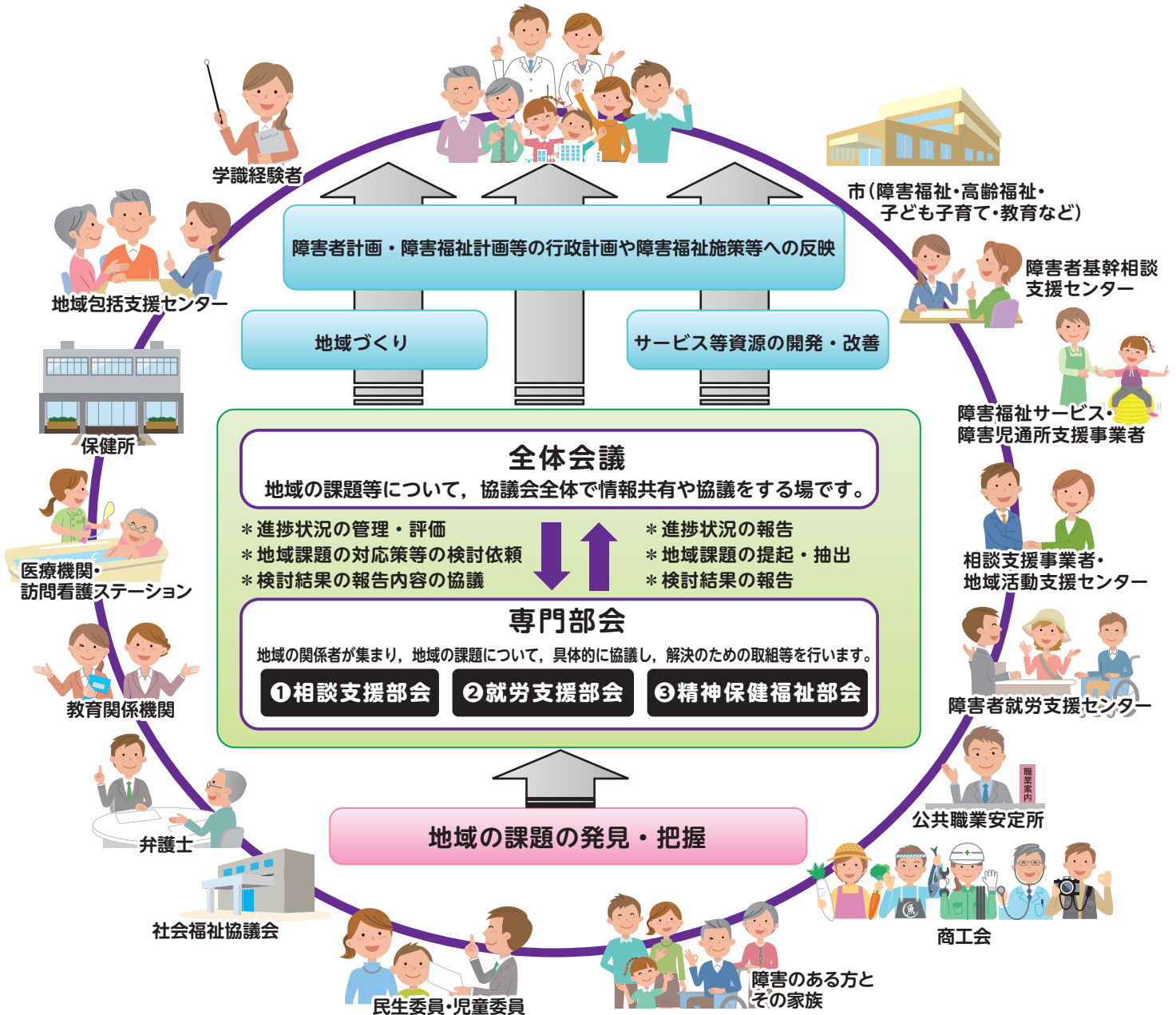
精神保健福祉部会では、そのような実情に焦点を当てながら、市民の退院に向けた支援づくりを軸に、現状の考察や、具体的な退院条件整備、さらに退院後の生活支援も視野に入れ協議・検討を行う場として部会を運営しています。

精神保健福祉部会の委員は、病院と地域の医療関係者、保健所、市のいくつかの関係部署、複数の民間支援団体などです。“顔の見える支援ネットワークづくり”をモットーに、市民生活支援の創造に向け歩みます。



国分寺市障害者地域自立支援協議会

障害のある人もない人も、社会の一員として、互いを尊重し、支え合いながら、ともに生きがいを持っていきいきと暮らせるまちの実現へ

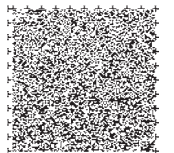


「国分寺市障害者地域自立支援協議会」について

障害のある人もない人もともに自分らしく安心して暮らせる地域づくりの実現を目指し、地域における障害のある人への支援体制の整備を図るため、障害者自立支援法（平成24年4月より障害者総合支援法）に基づき、平成19年1月に国分寺市が関係者や関係機関等の協力を得て「国分寺市障害者自立支援協議会」を設置しました。平成28年10月には、多分野・多職種連携による地域課題の具体的な検討、協議ができるよう再編し、新たに「国分寺市障害者地域自立支援協議会」として生まれ変わりました。

自立支援協議会は、全体会議、専門部会（相談支援部会・就労支援部会・精神保健福祉部会）、事務局会議で構成されています。全体会議では、①相談支援事業の運営に関する事、②困難事例に関する分析及び研究に関する事、③地域の関係機関等による情報の共有及びネットワークの構築に関する事、④地域の社会資源の開発及び改善に関する事などを協議しています。それらを受けて各専門部会では、専門知識を持った支援機関や関係機関が集まる課題解決チームとして、分野ごとに具体的な協議及び取組を行っています。事務局会議は、協議会全体の進行管理を担い、国分寺市障害福祉課、基幹相談支援センター、各専門部会の代表が集まり、地域課題の整理や議題調整等を行っています。

平成29年度の全体テーマは、昨年度に引き続き「地域課題の掘り起こしと共有」、「顔の見える関係づくり」とし、障害者、高齢者を含む全世代が、地域で自分らしく安心して生活できるように、具体的な取組を進めています。



「障害者福祉施設の“ものづくり”について考えるセミナー」(就労支援部会)を開催しました

就労支援部会では、障害のある方の工賃向上に向けた取り組みなどを行っています。

平成29年9月8日(金)、吉祥寺にある全国の障害者福祉施設の製品を取り扱う民間初のセレクトショップ「マジエルカ」において、「障害者福祉施設の“ものづくり”について考えるセミナー」を開催しました。

当日の講師は、「マジエルカ」の代表・藤本光浩さん。日本全国の障害のある方々の作る製品の中から、魅力の高いモノを選び、従来の福祉バザーや福祉ショップのイメージとは違った売り場づくりで、たくさんの方々にその魅力を伝えています。

実際の店舗見学を交えながら、様々な取り組みについて、ご紹介いただくとともに、障害者福祉施設が“ものづくり”をするうえで大切な考え方や、より魅力ある商品に見せるための工夫などについて、詳しくお話をいただきました。セミナー参加者からは、「障害者福祉施設でのものづくりについて改めて見つめ直す大変良い機会になるとともに、原価を圧縮する方法や価格設定の仕方など多くの『気づき』があった」との感想をいただきました。今後は、このセミナーで得たことを就労支援部会の取り組みにも活かしていき、少しずつ目に見える成果を出していければと考えています。



マジエルカ店舗情報

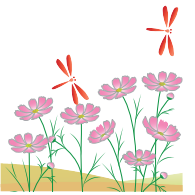
〒180-0004
武蔵野市吉祥寺本町3-3-11 中田ビル1F・B1F
☎: 0422-27-1623 FAX: 0422-27-1625
営業時間: 11:00 ~ 19:00 休日: 毎週 火曜日



市民向け講演会平成29年度 市民向け講演会「まちづくり入門—地域の発見から再生へ」

国分寺のまちづくりについて、障害者・高齢者の視点から、パネリストとともに考えていきます。あなたが望む「地域の暮らし」とは？素敵なヒントが得られるかもしれませんよ。ぜひ、お気軽にご参加ください。

基調講演: 長沼行太郎氏(評論家・まちづくり・コミュニティ研究家)
ゲスト: 澤田大輔氏(日本福祉のまちづくり学会 理事)
日時: 11月26日(日) 午後2時~午後4時
場所: 国分寺市障害者センター2階 参加無料(手話通訳あり)
主催: 国分寺市障害者基幹相談支援センター
申込先: ☎042-320-1300 FAX: 042-321-1207 (11月2日受付開始)



平成29年度障害者週間行事

毎年恒例の障害者週間行事を行います。今年は、公民館事業のロビーコンサートと同時開催です。また、昨年と同様「ニコニコアート展」を開催します。式典と舞台発表は9日、「ニコニコアート展」は3日~10日開催いたします。

日時	12月9日(土) 第1部 障害者週間行事(無料) 午後4時~午後4時50分 第2部 ロビーコンサート(チケット600円) 午後5時10分~午後6時40分 【ニコニコアート展】本多公民館2階通路に展示 12月3日(日)~10日(日) 午前8時30分~午後10時(10日のみ午後3時まで)
場所	本多公民館 ホール
定員	なし
内容	作文コンクール優秀作文発表(小学生)、コンサート 【ニコニコアート展】障害のある方の絵画展
主催	【障害者週間行事】国分寺市・国分寺市障害者福祉を進める会 【ロビーコンサート】本多公民館・喫茶ほんだ

問い合わせ先
障害福祉課
042-325-0111
内線 344

ワーキング報告
相談支援部会のワーキングでは、障害者が住み慣れた地域で安心して豊かに暮らし続けられる支援について話し合っています。具体的にはコーディネーター(相談支援専門員)が作成する利用者本人の思いや希望を反映させた総合的な支援計画(サービス等利用計画)の書式について検討しています。あわせて相談支援専門員が行う事務的手続きについての見直しも行い、相談支援専門員がより効果的な相談支援に取り組めるような仕組みについても検討を行っています。
またこの他にも、これから福祉サービスを利用しようとする方が見てわかりやすいツールの作成についてのワーキンググループも今後立ち上げ、作業を開始することになっています。



講演会のお知らせ

講演会
参加費無料

東京ディズニーリゾートにおけるユニバーサルデザインの取組

講師 野口 浩一氏
株式会社オリエンタルランド
CS推進部CS推進グループ パリアフリープロデューサー
日時 平成30年1月14日(日)
午後2時~4時(開場午後1時30分)
会場 国分寺Lホール(国分寺駅ビル8階)
定員 150名
主催 国分寺市
お問い合わせ 国分寺市福祉保健部 障害福祉課計画係
〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1
TEL 042-325-0111(内線521) FAX 042-324-6831
E-mail: syougai@hukushi.city.kokubunji.toyko.jp

この印刷物は障害者優先調達推進法の対象となる市内の障害者就労施設で制作しました。

発行

国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレター
平成29年(2017年)10月発行
発行: 国分寺市障害者地域自立支援協議会
編集: 国分寺市障害者地域自立支援協議会 事務局

国分寺市福祉保健部障害福祉課
〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1-6-1
☎: 042-325-0111 FAX: 042-324-6831

国分寺市障害者基幹相談支援センター
〒185-0024 東京都国分寺市泉町2-3-8
☎: 042-320-1300 FAX: 042-321-1207

印刷: 社会福祉法人東京ココニー

編集後記

11月26日の市民向け講演会は、国分寺市に住む、働く、歩く、食べる、学ぶ、遊ぶ・・・さまざまな視点から家族と住宅のこれからを身近な問題を通して、パネリストと一緒に考えていきます。障害者がくらしやすい街は、高齢者も小さな子どもを抱える親にもやさしい街です。国分寺市の不動産状況等を交えて話を進めていくうちに新たな国分寺市を発見できるかもしれません。是非、国分寺市障害者センターにお越しください。

国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレターはいかがでしたか?今回は、初回の「ごあいさつ」として皆さまにお届けいたしました。今後、事務局として障害当事者・福祉関係者だけでなく広く市民の皆さまに手に取っていただけるよう、お役に立てる情報も掲載して参ります。では、第2号で、またお会いしましょう。

事務局編集部

